令和５年度

大川市総合教育会議議事録

令和５年１２月２５日

令和５年度大川市総合教育会議

１．開会及び閉会に関する事項

開会　　１５時００分

閉会　　１６時５０分

２．出席者

市　長　　倉重　良一

教育長　　内藤　妙子

委　員　　谷川　朋昭

委　員　　蔵本　美保子

委　員　　今村　秀一

委　員　　木下　明子

３．事務局等の出席者

人事秘書課長	仁田原　敏雄
総務課長	田中　準一
企画課長	野中　貴光
学校教育課長	添田　宗孝
学校教育課主幹指導主事	藤岡　忠司
学校教育課指導主事	森　　茂
〃	古賀　孝志
生涯学習課長	井口　秀成
生涯学習課社会教育主事	松延　聡

４．オブザーバー

大川市小学校校長会長	宮﨑　隆行
大川市中学校教頭会長	中村　和滋
川口小学校主幹教諭	荒巻　友子

５．傍聴者

０名

６．協議事項

（１）子どもたちのための学校における働き方改革について

７．議事

○添田学校教育課長

皆さんこんにちは、学校教育課の添田でございます。

本日は年末の大変お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

只今より令和５年度大川市総合教育会議を開会いたします。

それではまず市長の方にご挨拶をお願いいたします。

○倉重市長

皆さんこんにちは、総合教育会議に皆様お忙しい中にお集まりいただきましてありがとうございます。

この会議は平成２７年の法改正に伴って市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設置されましたということを、冒頭確認をさせていただきたいと思います。

私が就任いたしまして、総合教育会議が平成２７年に法改正されて、私が平成２８年の秋に市長になりましたので、実質、大川市で開催している総合教育会議を私の元でほとんど開催したことになっておりますが、これまで学校安全のことですとか、地域との学校の繋がりのことですとか、色々な方の知恵を拝借しながら教育委員の皆さんと率直に意見交換をして、内藤教育長も後でお話されるかもしれませんが、何か会議をやって話してよかったね、で終わりではいけないなと、一つでも二つでも、子どもたちのために、あるいは我々自身のためにも、実効性のある知恵ですとか、あるいはその想いみたいなものを、この総合教育会議の場で出していければ、そして皆様と共有していければ、すごく子どもたちが今、数としては減っていますけれども、何と言いますか先の見えない世の中を少しでも力強く生きていく力をつけるために、我々が何をすべきかというのをみんなで考えるような会にしたいなというふうに思っております。

今年の議題としては、「子どもたちのための学校における働き方改革」ということであります。

後ほど教育長から話があろうかと思いますが、今年１年みれば色々なことがございました。世界では、ロシア、ウクライナの侵攻はまだ終わりが見えない中で、イスラエルとハマスの紛争があって、何千年も、私たち人類は成長せずにそういう争い、殺し合いみたいなことがやめることができない存在だなというのを改めて思い知らされた年ではあるのですけども、勿論、大谷翔平さんはじめ嬉しいニュースも沢山あったのですが、私の中でこの１年は、本当に衝撃的だったのが生成ＡＩであります。去年の１１月頃にＧＰＴのニュースが出てきまして、今年の春ぐらいにＧＰＴ４いわゆるＣｈａｔＧＰＴの新しい商品が開発され世の中に出て、衝撃度はとてもすごい時代に入ったなということで覚えておりますし、その衝撃を受けて言いますと、半年ぐらい経っていますが、既に我々が使っているこういうパソコンといいますか、普通にもう実装されているということで、昔であれば、何か凄い技術的な開発があって、それが我々の生活に届くまでにものすごい時間がかかったと思うのですが、ちょっとこのＡＩとかインターネットの世界は半年で我々の手元に届いてきてしまっている

というような状態で、生き方を変えないといけないレベルの衝撃だったのですが、今月、Ｇｏｏｇｌｅが発表いたしましたジェミナイというものが、これもまたＣｈａｔＧＰＴに負けるなということで、Ｂａｒｄというものを生成ＡＩのＧｏｏｇｌｅが開発していますが、そこにプラスして、マルチモーダルといいまして、私がこうやって動いたりしていますけど、動きとか声とか、もう文字だけじゃなくて、音とか、色んなものを総合的に判断できるＡＩのジェミナイというのをＧｏｏｇｌｅが開発して今月発表されました。ジェミナイも色々あるのですが、今日、総合教育会議ですので、少しだけ教育分野でちょっとこの新しいジェミナイは、学校のテストで、これ物理のテストですけど、子どもが手書きで書いています。これを写真に撮ると１番、３番間違っていますよ、２番、４番は正解ですっていうのを瞬時にＡＩが判別しているわけですよ。写真で取り込んだだけですから、それ見たら、ここが間違えているよっていうのを、これまたすぐ赤く囲って教えてくれるっていうか、物理の解き方で、まぁまぁ高校生レベルぐらいのちょっと難しい問題ではあるのですけど、こうやって解き方を教えてくれて、このすごいところは教えてくれるだけじゃなくて、これを理解したのであれば、この問題解けますかって言ってきて、別の問題をあらかじめ用意されたプログラムの中から出すのではなくて今考えている。このジェミナイっていうAIで、問題が出てきて四択でこれですって言ったら、わかっていますねって、いうことなのです。

ちょっと宣伝のＶＴＲなので、わかりにくかったかもしれませんが、こういう速さで、要は丸付けボランティアさんがやっていることは、基本的に写真で取り込むと瞬時で全部やってくれるっていう世界が今もう目の前にきているということです。僕がこれを見て感じたのは、先生たちが、先生としてのその時間の使い方をやはり考え直す時期に来ているのではないか、沢山作業があると思うのですけども、こういう機械を使ってそれらから解放されて本当に子どもたちとの付き合う時間を増やすものにもしてほしいなと思う反面、こういうものが我々の手元に今出てくるということは、勉強したい子はいくらでも勉強ができます。
ただ勉強したいと思わない子は、どれだけこんなにツールが出ても、全く止まったままいくし、もっともっと勉強したいっていう子はもう塾に行かなくてもこれでどんどん勉強できるということで、すごく格差が広がっていくのではないかなというふうに思っていまして、後でそういう話にもなるかもしれませんが、学校とか先生たちには、是非その子どもたちが学びたいとか学んで楽しいとか、何かそこを教えることに時間を使っていっていただくような時代に入ってきているかなと、そのためには今のやり方も変えるべきところは変えていかないといけないのかなと、そんなふうに思っております。

ちょっと冒頭の挨拶からしたら長くなりましたけれども、私たちでも経験したことのない時代を生きていますので、子どもたちが、なるべく何かワクワクするような人生を送っていただくために、知恵を一緒に絞っていきたいというふうに思いますのでよろしくお願いしてご挨拶といたします。

○添田学校教育課長

ありがとうございます。ここで出席者のご紹介を私の方でさせていただきたいと思います。

まず、倉重　良一市長でございます。
内藤　妙子教育長でございます。
左の席から順にいきますので、ご了承いただきたいと思います。
谷川　朋昭教育委員でございます。
蔵本　美保子教育委員でございます。
今村　秀一教育委員でございます。
木下　明子教育委員でございます。
小学校校長会会長で木室小学校の宮﨑　隆行校長でございます。
それから中学校の教頭会会長の中村　和滋教頭でございます。
それから主幹教諭代表ということで、川口小学校の荒巻　友子教諭でございます。
松延　聡社会教育主事であります。
古賀　孝志指導主事でございます。
森　茂指導主事でございます。
大川市の企画課長の野中　貴光企画課長でございます。
田中　準一総務課長でございます。
仁田原　敏雄人事秘書課長でございます。
それから生涯学習課長の井口　秀成課長でございます。
藤岡　忠司主幹指導主事でございます。
それから私、学校教育課長の添田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
これより先は要綱の第５条に従いまして市長の方で進行をお願いいたします。

○倉重市長
はい、それでは教育長から協議に入る冒頭で、「子どもたちのための学校の働き方改革について」ということで、概要説明をお願いしたいと思います。

○内藤教育長
皆さんこんにちは。市長のご挨拶にありましたように、子どもたちのために私たちに何ができるかということでこの会が成功となればいいなと思っております。テーマが「子どもたちのための学校の働き方改革について」ということで、当初、働き方改革だけにしていたのですけれども、それじゃあ先生たちのためになってしまうみたいなことがあるので、最終的に子どもたちのためになることをしようよ、ということでタイトルもちょっと変えました。
冒頭にちょっと今日見ていただきたい動画がありますので、２本ちょっと続けてみていただきたいと思います。先生の幸せ研究所というところの動画です。

〈動画視聴〉

もう一つ、今度はちょっと３分ぐらいありますので、ちょっとゆっくり見てください。

〈動画視聴〉

動画を二つ見てもらいました。

今日のテーマは子どもたちのためのっていうことですけども、先生たち、教師の働き方で今現在、大川市がどんな取組をしているかをまずご紹介したいと思います。

資料は配布していると思うのですけれども、大川市における教職員の働き方改革の現状ということでちょっとまとめてみました。スクリーンと同じですが、まず教職員の意識改革としては、ＩＣカードによる勤務時間の管理、そして定時退校日や学校閉庁日などを設定しております。

そして業務改善の推進としては、各学校、先生たちの校務支援ソフトを導入しておりまして、また、会議資料や安全点検のデジタル化、そして保護者への安心安全メールの活用、留守番電話の導入、水泳指導の民間委託等々をしております。

また、部活動の負担軽減としては、部活動指導員、４人ですけれども配置しています。

そして専門スタッフの活用としては、各学校に学校司書配置、そして学級指導支援者、合計３１名の支援者を入れています。学習指導員、ＩＣＴ支援員、スクール・サポート・スタッフ、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、門扉開門業務、これは朝、ビル管理の方にお願いして、朝、門扉を確認し、その後１時間、子どもたちの安全確認をしていただいています。

最後にコミュニティスクールの推進等々です。教育委員会として学校の働き方改革について、現状こういうことをやっております。

今までやってなかったこととして、部活動の地域移行化、これについては全国的に流れが出ておりますが、残念ながら大川市はまだ全然手をつけておりません。

更に支援スタッフの充実、これは今からもしていかなくちゃいけないかなと思っています。

そして給食公会計化、これもまだやっていないですね。これらは業務改善にあたる部分じゃないかなと思います。

しかし、業務改善だけすればいいという問題ではなくて、先程から出ているゆとりですね、時間のゆとり・心のゆとりを取るためにも、まず２学期制とか、自由進度学習とか、ＩＣＴによる事業効率化、こういったものを授業改善としても取組まなくちゃいけないかなというふうに思っています。

この業務改善と授業改善が行ったり来たりしながら、より良い改革ができたらいいなと思っています。

本日はオブザーバーとして３名、現場の方から来ていただいています。部活動の地域移行かとか、２学期制、そして自由進度学習、ＩＣＴによる事業効率化等々、現場の先生たちのご意見なども伺いたいなと思っておりますので、座っている３名の方、直ぐにでも発表できるように心の準備をしていただけたらと思っております。

いずれにしても子どもたちのための改革ということでやりたいと思っていますので、今日の皆様方のご意見、教育委員の皆様方のご意見を、是非来年度の取組の一つにでもなればい

いなと思って今日の会議を進めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

○倉重市長

先程の教育長の今日のテーマの説明を踏まえて、まず、教育委員の皆様方からご発言をいただきたいと思います。谷川さんから順番におっしゃっていただければと思います。

○谷川教育委員

議題に上がっています、子どもたちのための学校の働き方改革ということで、他の委員さんからも色々なご意見がでるかとは思いますが、私が思うところで、少しお話をさせていただきますと、小学校に関しては、先生の数をもっともっと増やしたいなと。なぜかと言いますと、先生を増やすことで当然、先生方の仕事の量が減り、体と心に余裕ができる、もう一つは、先生を増やして、担任制をなくして、１人の先生が全ての教科を教えるということではなくて、中学校みたいに全教科とはいかずとも、例えば、今でしたら、英語をサポートしてくださる先生がいらっしゃるように、数学であったり、国語であったり、専門性の高い先生に授業していただく、そうすると教える先生も、自分の専門の知識を持った授業を子どもたちに教えることができると当然、先生方も多分楽しいだろうし、得意分野ですので、教わる子どもたちもやはり理解ができて楽しい。その分空き時間ができるので、その間にまた別のことができる。先生方と子どもたちがコミュニケーションを日常的に取ることができるのではなかろうかというふうに思うのと、もう一つは、そういう人材をなるだけ地元の大川、あるいは大川周辺のところで確保ができればいいなって思っております。とにかく小学校の先生の数を増やす、それぞれの教科を得意な先生が持つような取組ができればというふうに思っております。

中学校に関しては、部活動は、ゆくゆくは廃止と思います。というのは、中学校の部活動教育の一環としての部活動の取組が、現時点では、だんだん勝利至上主義、そういうふうに流れが変わってきている傾向が強くあります。また、地域に移行するという流れにもなっています。そうすると、部活動を楽しみに先生になったという先生もいらっしゃるかもしれませんが、現時点では、クラブチームと中体連に所属している中学校の部活動が同じ土俵で試合ができる、同じ大会に出場するというのもでてきていますが、そうなるとクラブチームは当然、勝利至上主義に走っているところが多く、結果重視になる。そういう傾向で全てがもう外部指導に任せるようになってくれば、中学校の部活動は必然的になくなってしまうのかなというふうには思いがあって、ちょっと発言をさせていただきました。部活動が廃止になる極論なところでお話をさせていただきましたが、以上です。

○倉重市長

はい、ありがとうございます。蔵本委員お願いします。

○蔵本教育委員

はい、私は身近なところで、ＩＣＴの活用でできそうなことということで、今日は市長も教育長もタブレットを使ってらっしゃいますが、教育委員会定例会はタブレットではなくて紙なのですが、クラウドにも上げといてそこにアクセスして見るとか、介護認定審査会とかは、タブレットを使用してそこで審査しています。学校もＦａｘが中心みたいな状況ですけど、ＩＣＴ支援員の先生もいらっしゃるので、セキュリティとかそういうのもあるかもしれませんが、その辺は紙でなく、データベースでやっていくようにしたらいいと思います。教育長から頂いた資料のところで言うと、学校だよりとかも、もうメールで保護者に直接だったり、かえって中学校だと、子どもは持っているけど、親は持たなかったりはするのですけど、紙に印刷して渡すのではなく、メールやＳＮＳで直接見る方法が良いのではないかと思います。

学校訪問の冊子とかも、ものすごく分厚いのを頂くのですけど、あれを作るのも先生方大変だろうなと思うのですよ。データで一元化して学校から教育委員会に提出するとか、見たい人が見たいときにアクセスすればそれで事足りるならそうやっていいのではないかなと思います。私は頂いたのは全部みたいので、全部くださいというのですが、そういう使い方をして必要な分だけ見る、そうやって省略できることは省略できればと思いました。

あと、私の知り合いの方に働き方改革のお手伝いをしているという講師の方がいらっしゃるのですが、学校の働き方改革は授業改革がないと進まない要因ですよと、働き方改革で時間ができても先生たちは教材研究をしてしまう、結局それは、その先生方のワークアンドライフのバランスとしてどうなのかなと。授業のやり方自体をプロジェクト型学習に変えていくとか、さっき教育長がおっしゃった個別最適化に変えていくとか、私も先生が授業をするって考えていたのですが、これからは市長もおっしゃったとおり、わからないことに立ち向かっていくということなので、子どもたちが学ぶことへの横からの支援とかが人間の先生の役割かなと思います。先生方も色々したいと思うのですけれど、違う考え方を持って、考え方を変えていくといことも大事なのかなと思います。

○倉重市長

はい、今村委員。

○今村教育委員

まず、子どもたちのためにということが一番ですけども、やはり先生方が幸せになってほしいなって思います。でも、そのためにはどういう働き方改革をしたら、より活性化できるのかなと思います。先生になりたいっていう人が増えて、子どもも含めて大川市に人が集まるということにも繋がっていくのではないかなって考えています。

具体的に何をしたらということだと思いますが、冒頭に市長からもありましたし、教育長の方からも、こういう形ではどうかというお話がありましたが、２学期制ということには、チャレンジというか、やはり先行しているところもありますので、そこには良いところとい

うのは沢山あると思います。なので、そういったところをきちんと把握しながら、できないところできないところで、どうしたらできるのかということを考えて、一つ一つ潰して、それで働き方のあり方と時間の使い方が変わってきて、子どもたちのためにより有効な力が提供できる教育環境ができないかと思います。

あとは教科のことも先程からありましたけども、進める子はどんどん先に進んでいく、そうじゃない子も何か得意があるわけですから、教科も選択していくとか、ベースは勿論ありながら、そういうことができるような教育体制が取れるとまた少し違った形で子どもたちが興味を持ってくれる、先生方もご自身の専門のことをできるので、それ以外のことで手を煩わされるというところが少なくなる気がしますので、そういった方向性に導けないのかなというふうに思います。

あと、やはりＩＣＴ、これは折角、大川市は先行してタブレットを配付しているので、学校の中で活用の仕方を是非、検討いただいて、関心がある子と持たない子がどんどんその中で差がついていくという言い方が正しいのかわかりませんが、折角１人１台持っているタブレットを勉強での活用の仕方で、キーボードの打ち方とか大切だと思うのですけども、それ以外の子どもたちが興味を持ってタブレットに携わる、そしたら自分が好きな教科だとか科目については、それで調べていけるようなそんなノウハウを身に付けていかなければいけないのかなという気持ちです。以上です。

○倉重市長

はい、ありがとうございます。木下委員お願いします。

○木下教育委員

私からは３点、お話しさせていただければと思います。子どもたちのための学校の働き方改革ついて、まず先程の冒頭の説明でもありましたように、先生たちの笑顔が、子どもたちの笑顔に繋がっていくというのは皆さんご存じのとおりだと思います。その中で、学校訪問などをさせていただきながら思ったことですけれども、やはり先生たちの負担がとても大きいなと。先生の立場になったときに、まず平日だったら朝５時半に起きて、そこからスタートしてと、色んな大変な話を伺いました。そのような中で、先生たちの負担をどうにかして軽減していくことが重要な解決策だなと思いました。

この点におきまして、まずは２学期制につきましては、２学期制を導入しているところが半数あるということで、世界基準に大川市が合わせていく良い機会ではないかと思います。そして、２学期制のメリット・デメリット、３学期制のメリット・デメリット沢山色々あると思いますが、２学期制がなぜ良いのかと申しますと、まず先生たちの負担削減に直結しているのではないと思っております。そして、２学期制を取り入れたところで、先生たちの授業の改善策などの研究の時間が取れますし、子どもたちにとっても２学期制を取り入れることで、継続した学習で長く時間を取ることができ、１学期、２学期、３学期と途中で途切れることが少なくなるのもメリットだと思いますし、子ど

もたちのメンタル的なところでも、継続的に長く時間が取れるのもメリットだと思います。

そして部活動の地域移行ですけれども、部活動の在り方について、地域移行していく方向で進んでいくのではないかと思います。先日、市町村の教育委員会の研究協議会に参加させいただきまして、全国の教育委員会の皆様とお話をさせていただくことがありました。その中で、やはり改革に向けた取組の中で、先生の働き方改革は勿論ですが、子どもたちの意向はどこにあるのかなと内心疑問だったのですが、それについて沢山の自治体、進んでいるところはアンケートを沢山取られていて、１万人アンケートを取ったというところもありました。その中で地域移行について、土日に子どもたちが本当に部活をしたいものなのか、まず、そもそも部活が必要なのか、というところのアンケートがあったのですが、土日もしも地域移行するのではあれば、部活でなくなるのではあれば、半数以上の子どもたちは部活をしたくない、そこの地域移行にも参加するどうかかわかならい、なぜなら、それは自分たちの友人に会う時間だとか家族との時間だとか、ゆとりの時間があるか、というのが半数以上でありました。実際、大川市はアンケートまで進んでいないので、どのような結果が出るのかというのは今後の状況かなと思いますが、そういった子どもたちの実態調査と人材発掘、地域にそういう方がいらっしゃるのか、部活を地域に移行するのは実は難しいのではないか、部活がそのままあり続けるという考え方自体がおかしいのではないか、と言われる方々がいらっしゃいました。そういった方々がまずは部活がなくなりますと、部活ではありません、ただ、地域の人材をしっかりと素晴らしい人たちがいらっしゃいますので、そこに子どもたちを参加させていただくという形をもって移行していきたいなと、そういうことで移行しているということでした。そういうことで様々な自治体の皆様の意見など、実際に進めていらっしゃる人たちの声とか、部活にも参加したいとおっしゃっていただいている先生たちもいらっしゃったので、色んな形があると思います。その中で忘れていけないのが子ども達の選択肢がもっと広がるというのが、念頭において色んな仕組みづくりとかを考えていくことがベストな考え方かなと思っております。

○倉重市長

今４名の教育委員の皆様にそれぞれご発言をいただきました。先生の数を小学校は増やし教科担当制にすべき、あるいは中学校の部活は廃止でいいのではないかと、それからＩＣＴの活用をする、また、時間ができても同じような授業のやり方だと、先生が研究に時間当てちゃって変わらないので、授業のやり方そのものを変えないといけないですとか、２学期制にはチャレンジしていいのではないか、あるいは選択ができる教育体制、最後の木下委員からは先程２学期制は賛成、負担軽減と子どもにとっても継続した学習、それから部活動についてご意見がございましたが、今出されたご意見について何かもっと聞きたいとかいうことが皆様あれば、お話しいただきたいのですが。

今日折角来ていただいていますので現場の声を、３名のオブザーバーの方からいただければと思います。では、宮﨑校長からお願いします。

○宮崎小学校校長会会長

はい。まず２学期制について、委員の皆様からご意見いただきましたけれども、今年度、小学校の校長会で２学期制のプロジェクトを４名のメンバーで立ち上げました。最初、働き方改革っていうのを念頭に、子どものゆとりある教育ということと両方思っていたのですが、話し合いを進めていく中で、これは同じことなのだとわかりました。

先程から皆さん方も言ってありますけども、教職員の働き方改革と子どものゆとりある充実した教育というのは、同じことだということになってきました。要するに、私も特に両方あると思って進めてきたのですけども、ちょっと議論を進めていく中で、そういうふうな感覚となってきました。

少し具体的に、どのように業務が減って、子どもたちに受け入れられるかっていうお話をしたいと思います。

例えば１学期では、７月、毎週、だいたい期末のテストをいっぱいします。子どもたちのテスト祭とかいって、１日朝からずっとテストばっかりと。小学校でも、１日４枚から５枚のテストするのが７月の第１週ぐらいです。そして第２週ぐらいに成績締め切りを迎えます。先生たちはもうそのときには成績をつけて提出しなければいけないから、とても忙しい。そして授業はどうなっているかというと、１学期のまとめという学習しています。子どもたちはもう普通の教科の学習を進めるのはなくて、１学期のまとめをしています。

これを２学期制にすると、そこがなくなりますね。そして、普通の授業が７月の２０日まで行われます。ただ振り返りは大切ですので、それは学習の一つのまとまり、単元というけれども、単元ごとに振り返りをして、復習をしていけば、私は学期の後に全部する必要はないのかというふうに思っていますけども、単元ごとに、一つのまとまりごとに復習をしていきながらしていくと、極端に言うと７月２０日まで色んな行事ができるし、学習ができる。先程教育長の方から、水泳授業を民間委託しているという話があったのですが、今のところ３学期制だと、７月の第１週からは入れられないのです。もうテストをしなきゃいけない、まとめをしなきゃいけないので。そこを１週間に２回、４時間プールで取られると時間が取れないのですけれども、３学期制をなくすと、７月の２０日まではできるし、色んな行事ができます。また、終業式、始業式の数も減りますので、学校行事の数も減りますので、当然授業時数というのも、ゆとりができます。

そして、さっき話したように、通常の授業はできますので、カリキュラムにゆとりができます。そうすると、もう詰め込みじゃなくて、子どもたちが自分たちで考えるような時間が多く取れるということになります。

２つ目にもう一つやはり教師の働き方改革ということで、先程、木下委員さんから、先生たちの笑顔が子どもたちの笑顔と言っていただきましたけど、まさにその通りで、先生に余裕があるクラスは子どもたちも問題がないし、明るい、先生が暗そうで、ギリギリで頑張っているクラスは子どもたちもトラブル多いし、子どもたちも表情が暗いということが言えます。１番教員をしていて嫌だなと思う業務は、通知表の所見といっ

て、文章でいっぱい書くところがあるのですが、あれを考えなければいけないのが、教職員の仕事の中で１番苦しいです。先生たちもそれを書かれて、管理職で主幹教諭、教頭がいて、校長が見て、赤を入れて返して、またそれを提出してもらって、もう１回見て、また書き直してもらって、赤が入るのがゼロになって、最後、判を３つもらって、初めて公務支援ソフトの印刷可が押されて、そのクラスの印刷ができる。それは何十時間だと思うのです。それが削減されるということが大きなメリットですね。そして、そのきつい業務を例えば２学期制すると、ある程度前期の分は夏休み中に、後期の部分は冬休み中にまとめておいて、ストックしておくと、学期末になったときに慌てて書く必要がないので、とても余裕があるかなと思います。先程も話しましたけどもそれが余裕のある先生のクラスは本当にトラブルが少ない、そして子どもも明るい。そうでないクラスはやはりトラブルが多くて、子どもの表情も浮かない。また、先生にゆとりがないと、子どもがＳＯＳを出しているのに気づけなくて、いじめとか、不登校を見逃すことになります。そういうのがやはり現れてくると思います。やはり２学期制というのは、先程今村委員さんからもありましたけど、委員さんが色々メリット、デメリット、できないところもあると思うのですけども、やはりしてみないとわからないので、してみて改善していくということが一番いいのかなと考えております。

○倉重市長

中村教頭会会長、次お願いします。

○中村中学校教頭会会長

はい、失礼します。部活動の地域移行についてということで今お話がありましたが、私はどちらかといえば部活動の指導がしたくて学校の先生になったというようなところがあって、教諭時代は一生懸命バスケットボールの方に取組ました。

ただ、私の専門は陸上でして、バスケットみたいなチーム競技はしたことがありませんでした。教員になって野球とバスケを持ったのですが、バスケットが面白くて、なかなかハマってしまいまして、色んな勉強しながら、工夫しながら指導の方やっております。

ただ、今生徒の数も減ってきて、実際に２校、中学校がありますが、単独で部活ができないというところも出てきております。来年からはバスケットの女子の方、桐英中学校も、一時は一番多かったバスケットでも、人数が足らないというような状況になってきています。サッカーは、昔はサッカー王国というか、非常に強くて、全国大会にも出たのですが、サッカーの方も桐英中学校と桐薫中学校１チームで活動している状態です。

生徒数も減ってきて、学校の方でも部活動もだいぶん減らしてきております。子どもたちの中には、実際に自分がやりたい種目ができない子どもたちが結構います。

社会体育の方でサッカーとか、野球とか、バレーボールの受け皿ができておりますが、やはり地域移行ということで部活動も考えていかないといけないのかなと思います。

単独部活動にするとどうしても、出る選手は決まってきますので、生徒が出たいのに出られないという生徒も増えてきます。また、先生方の働き方改革からすれば、やはり時間にすれば、土・日に部活をする、平日でも放課後の部活動を入れるとやはり週に６時間から７時間、ある人は８時間とかやっている先生方もいらっしゃいますので、合同部活動で一緒にすれば、交互に出ることで、先生方の働き方改革にも繋がりますし、選手も人数がある程度揃って練習すると、なかなか活気もでます。バスケットでは、５人しか試合に出られないのですけど、当然ながら練習のとき、７、８人しかいないと、なかなか思うように練習できないので、合同になると思いっきり練習できます。

ただし、色々問題があって、練習時間・練習会場など、土日しか一緒にできない、試合もそうなると、出られる選手と出られない選手両方でてきます。そういうようなことで、どちらがいいのかなと考えるところです。

もう他の地区では、クラブチーム制になっているというところも結構あります。学校の部活をそのままクラブチームにして、学校の時間ではない時間に練習をする。それは１回帰って、５時半、６時に集合して、本当であれば２時間なら２時間という練習なのですが、そうなってくると、だんだん指導に熱が入ってきて、８時、９時というチームも他県でも見られますし、本県でも都会に行けば行くほど見られるところがあります。大川市はこれから色んなところで事務局などを立ち上げながら、合同部活動移行を実行するとかなど、少しずつ検討していかなければいけないのかなと思っています。

一番はもう、子どもたちが満足して部活と自分がやりたい種目をやれる環境を作ってあげたらなと思います。それに先生たちが、もう土日の指導で疲労困憊疲れてどうしようもないというような状況はできるだけ避けていきたいなと思います。以上です。

○倉重市長

はい、ありがとうございます。荒巻さんお願いします。

○荒巻主幹教諭

失礼します。最初に谷川委員さん、蔵本委員さん、今村委員さん、木下委員さんが述べられたことで、先生たちのことをとてもよく考えてくださっていただいていることを知るということができて、今日ここに参加することで知れたので、とても嬉しく思います。感動しました。

谷川教育委員さんが言われた先生の数を増やしたいっていう思いが、私とても嬉しくて、一番の願いはそこです。なぜかというと、今子どもたちが減ってきて、３学級あったものが２学級になったり、２学級あったものが、１学級になったりして、クラスの数が少なくなるということは、１クラスの人数が多いところが出てきているというのが色んな学校であります。

そうすると１人の担任がみる人数が多いということは、教師にとって負担が大きいといことで、子どもたちが大好きなのですけど、不安もいっぱいあるので、一番は先生の数を増やしたいというのが、願いとしてあります。

でも、それが直にできることではないとは思うので、今、大川市では沢山予算をつけていただき、スタッフの充実を図っていただいていて、これはとても助かっています。

スクールサポートだったり、学級支援だったり、学習支援、そういうことで先生たちの時間のゆとりが生まれていると思います。時間のゆとりができるということは、そこでやはり蔵本教育委員さんが教材研究しちゃうからとおっしゃったのですけど、やはり子どもたちに力をつけたいっていうのもありますので、教材研究はとても大事だなと思います。今色んな行事に追われていて、教材研究の時間がなかなか終わらないので、こういうスタッフをつけていただくことで、教材研究の時間ができる、これは私たち教師にとってはとても嬉しいことなので、これを続けていっていただけたらと思います。

教師が時間にゆとりができるということが、やはり子どもたちにそれが繋がってくるので、教育活動が充実しますし、そうすると、子どもたちも笑顔になりますし、子どもたちの笑顔を見ることで、私たち教師も笑顔になるということで、全て繋がっていくことになので、サポートスタッフの充実、２学期制の話も出ましたけど、時数とか新しいことを取り入れていくことも大事だなと思いました。以上です。

○倉重市長

はい。もう１回宮﨑校長にお願いします。

○宮﨑小学校校長会会長

はい。自由進度学習というものが出ておりましたけれども、学校で先日、来年度の木室小学校はこうしますよって、話をした中で、ちょっと似たような話をしたのですけども、先生方にも浸透してない言葉ですので、皆様にちょっと自由進度学習というのはどんなものかというのを少しお話してから、その良さについてお話をしたいと思います。

自由進度学習というのは、教師が計画する学習内容の枠内で、子ども１人１人が課題を自己決定して計画を立てて、自分の学習速度で進め、その過程で友達と相互に作用しながら学びを深めていくことを目指したものというふうに、上智大学の奈須　正裕先生が定義づけられております。

これは実は何かというと、中央教育審議会答申の中で、令和の日本型学校教育の構築を目指してという流れで「個別最適な学び」と「協働的な学び」というふうに言われたのですけども、自由進度学習というのは、個別最適な学びの方に目が向いているというふうに思われがちなのですが、実は先程お話しましたが、その過程で友達と相互に作用しながら学びを深めていくというところでは、協働的な学習にもなってきます。これはこの頃言われ出したことではなくて、１９８０年ぐらい、今からもう４０年以上前に、愛知県の東浦町立緒川小学校というところで始められた学習です。もっと古く言うと、大正で１００年ぐらい前に、奈良女子大学附属小学校がしていたものとだいたい同じよ

うなもので、今度校長会で愛知県の緒川小学校に行くので、詳しくどんなことをしているのかなと思って調べてみましたら、ここは単元内自由進度学習というそうです。

全てを子どもに任せるのではなくて、単元、学習の一つのまとまりの中を子どもに任せる。ただ、子どもにぽんと任せるのではなくて、最初にガイダンスをして、これ、これ、ここではこんな学習をする、目標計画の時数、それから標準的な学習の流れなどの見通しをまず持たせる、そして、子どもが教師の提示する学習の手引きというのがあるそうです。これちょっと緒川小学校に行って貰ってこようと思っていますが、学習の手引きを見て、子ども自身が計画を立てて、そして自分で追及をする、そしてその追求した内容や方法をまとめるという四つの段階で行うそうです。これはどんないいことがあるかというと、子どもが学習する内容や方法を決めますので、蔵本委員さんが言われましたとおり、教師は教材研究をしたがります、これは教材研究をしなければいけないのですが、授業準備がいらない。授業準備というのは、同じ授業をするときに、３５人分教材を作って、同じように書かないといけない。これを前の日に準備します。

私は面積の学習で図形を切って、それを１人５個ずつぐらいで全部１５０個ぐらい切って、封筒に入れて配って、さあ、自分たちで出して捜索してみてくださいって、言っていたけれど、それをしなくてよくなります。

ただ、子どもに個別に指導していかなければいけないので、教材研究はしておかないといけないですが、子どもがＩＣＴを利用して、自分が調べたい内容については、自分で資料をどこからか引っ張ってきて、自分でそれを使って調べる、追求する。その間、教師は同じものを準備する必要がないということで、時間的に余裕ができると。

先が予測できない世の中になってきていて、今うちの学校の先生とも話したのですけど、予測できない社会で活躍する人材を育てるには、教えられたこと、学んだことや知識技能を、それを知っているだけ、使えるだけの人は活躍できないでしょう。

それはＡＩとかロボットが普通の時代になっています。だから、予測できないところで問題にぶち当たったときに、その問題をその中で自分の課題を見つけて、そして自分で解決方法を見つけて、計画を立てて調べてそれをまた発信するような、そういう人が活躍する人になるでしょうという話をしました。これがまさに自由進度学習で、求められている子どもの姿、それから問題解決学習という個別学習がそのようなことでした。今までそこは教師が指導していましたが、ところがこの自由進度学習は、計画から内容まで子どもがするということで、私は究極の学習スタイルではないかと思っています。これを進めていくことが子どもたちの豊かな学びに繋がるし、教師の働き方改革にも繋がるのではないかと考えます。以上です。

○倉重市長

はい。小学校と中学校と色々と課題がそれぞれあって、中村教頭会会長からでました部活動の地域移行について、少し皆さんのご意見を伺えればなと思いますけども、教育委員さんに限らず、この部活動の地域移行というか部活動のあり方自体、どんなふうにしていったらいいのかというご意見があればお願いします。

○古賀指導主事

中村教頭と同じく私も中学校でございますので、記伊教育長時代に生涯学習課が部活動を地域でどれぐらいの方が受けることができますか、という調査がありました。その時は体育協会の方でされましたが、卓球で１名だけで、その結果を見て中学校の現場でなかなか学校の先生方にお願いしないと部活動の担い手はいないということを私は感じるところでした。

それからまた働き方改革という言葉がでたので、やはり人々の意識も変わっていると思います。先生方もどうにかできないかと。それから木下教育委員がおっしゃった、子どもたちの本音は土日に部活をしたくない、その部分のデータは初めてだったので、そうなってきたら、今、サッカーでいうなら大川市内だったらペラーダ、野球だったら色んなチームがあります。

そういうふうな専門的なところに行って本当に純粋な社会体育でやる子どもたちと、中学校の中で体を動かしたり、ほぐしたり、中体連や全国大会に繋がらないような運動をするような部活に、もしかすると１０年後２０年後にはわかれていくのかなって思っています。どうしても中村教頭先生も私も従来の活動のあり方に染まってきており、そこで繋がった子どもたちが、もう４０歳になっても５０歳になっても慕ってきます。

だからそういう成功体験が私にも中村教頭にはあるのですけど、今その発想が変わって、子どもたちには、子どもたちの本音を聞く方が良いかもしれないですね。

本当に部活動を必要と思っているのか、そうであれば確かに私たちが行ったのは単なる強制だったのだなと。しかし、その強制から身に付くものもあるのです。

実は、私自身はどうこれをしたらいいのか。ただ現実に市民の皆さんに、部活を受けてくださいってときに、多分私は上がらないだろうなと思います。

そのなったときには、しばらくはやはり学校がやっていく。この道筋をどう弾いていくのかというのがこれからの課題のような気がします。

○倉重市長

ということですが、何かご意見はある方はいらっしゃいますか。

○内藤教育長

谷川教育委員の部活動廃止っていう考え方を聞きたいのですが。

○谷川教育委員

はい。最初に極論として中学校の部活動廃止がゆくゆくはなるのではなかろうか、今色んなお話を聞かせていただいて、現状では、運動部だったら中体連の元に色んな大会があっていますし、学校部活動が成立しています。それが先生たちの働き方改革という名のもとに、部活動の時間がものすごく短くなっています。

古賀指導主事も中村先生も私も同じようにずっとバスケで、私は中学校のとき休みは元日ぐらいしか休みがなく、多分夏休みは朝練昼錬をして、それなりに結果を出したし、生徒を指導してくださった先生にも有難く思っています。私もいい思いをした方です。

今、夏時間ということで、ものすごく短い時間、今この冬の時期でしたら、多分平日は学校が終わって、運動するために着替えて、ストレッチで準備体操運動して、いざその競技をしようと思ったときには、多分もう帰る時間です。正味３０分ぐらいしたら生徒は帰っています。古賀指導主事言われたとおり、大川市内でも、現状、クラブチームがあります。そっちに所属している子たちも、多分今はもう違うかもしれませんが、その子たちは学校の部活動に入ってないので、高校進学するときに、その評価が多分部活動として使えなかった時代は長くありましたよね。外の社会体育で活動している子どもたちは、中学校では帰宅部なのです。今は多分その社会体育している子たちも、部活動扱いをしてもらえる、週何回以上だったらとか、その結果を反映してもらえるということもあり、変わってはきていると思います。

結果、地域移行して、クラブチーム化・社会体育化してしまうとなると、中学校の部活動、中学校の学習範囲という殻から抜けてしまうという意味で、中学校の部活動はいつかなくなるのではないだろうかと、そういうところでちょっと発言をさせていただいたところでして、なくしましょうということではなく、流れとしては、中学校で管理とする部活動でなくなるのであれば、中学校体育連盟というものもなくなるのではなかろうかという発想で、なくなっていくのはないかなって。もしそれで中村先生もおっしゃられたように、中学校の先生になったのに、子どもたちにそのスポーツを通して色んなことを学んでほしい、子どもたちに色んなことを教えてあげたというので、先生になられた方たちも多くいらっしゃると思います。現状はその先生方が、土曜日曜の社会体育のクラブに移行したとき、指導に関わられるときに、例えば民間の方と２人又は３人と一緒に教えます。民間の方たちは多分手当がつくと思うのですよね、現状、学校の先生はそこで指導で関わってくださるのと同じ時間、そこにいらっしゃる。でもその先生には給料が発生しないという現状もあるのかなと。別に駄目ではないのですけど、今世の中の流れとしては、公務員も別に空いた時間に給料を稼いでもという流れにもなってきているので、そこら辺のところもちょっと課題があるのかなと思いますが、クラブチーム化・社会体育化してしまえば、中学の範疇での部活動ではなくなるという意味合いで、多分中学校から部活動はなくなるのではないかと思ったところでした。

○倉重市長

はいどうぞ。

○蔵本教育委員

今、部活動の話で、体育の部活の話がメインになっているのですけど、苦手な人もいて、私の時は体育しかなかったから、仕方なく入ったのですけど、文化的なのものを好

きな人もいるので、例えば文化協会にも色んな方がいらっしゃるけれども、参加する人が少なくて、とおっしゃっています。例えば、学校みたいなクラブにして、茶道とか書道とか色々なものがあって、選べて、そういうのに中学生が参加するというのもあるかなと思います。

夏に香港の方たちが来ていて、あの人たちは高校生なのですけど、部活みたいに週１回、さっき教育長がおっしゃった消防クラブとか何でもいいのですけど、そういう今までの感覚ではなくて、色々社会の地域の中で、卓球は教えられないけどこれは教えられるという方もいらっしゃると思うので、色んな幅がある活動でもいいのかなと思います。学校が普通の日は４時頃終わるということで、矛盾することも多いかも知れないですが、色んな発想を持っていいのではないかと思いました。

○倉重市長

はい、ありがとうございます。まったく個人的な経験ですけど、今、谷川委員がお話されているとおり、小学校からずっとサッカーをやっていて、中学校もサッカー部だったのですが、中学校の時の先生が、勿論休日があって、お彼岸は祝日なのですが、そしたらある先生が、「お彼岸に練習なんかしたら駄目だ。ちゃんと先祖のことを思う日なのだから、今日はサッカーやりません。」そんな先生でした。

勿論、全然強くなかったですけども、何のために部活をやっているのかなっていうのが、やはり人によって違うかも、子どもによっても違うと思いますし、勿論その携わる先生によっても、何か部活って、非常に日本独特の文化で、さっき茶道部とか書道部の話もありましたが、どうしても運動のことがやはりメインになって、誰がサッカー教えるの、バスケットを教えるのって、そもそも部活って何のためにあるのかなっていうのを何とかもうちょっと平たく考えないといけないのかなって、皆さんのご議論を聞いていて思いました。

何かの競技に打ち込みながら得られることって沢山あるので、それはそれで素晴らしいことなのですけれども、それをその学校の時間の中だけでやらなきゃいけないっていうところから少し離れていく方がいいのかなと、そのためにはただ民間にお願いすればそれでいいのかっていうと、それもそうじゃないような気もして、先程蔵本委員が言われたように、学校で子どもたちは、基本教室で先生と対峙しながら人生を選択していく時間が圧倒的に多いので、こういう校外のそういうサッカーでもいいですし、絵を描くでも、音楽でも、消防クラブでも何でもいいのですけど、学校が推奨する時間というか、そういう活動もあるよっていうことを促すっていうのも何となく全国的な議論がどうしても、面倒見る大人の対応をどうしましょうかっていうのがすごく何か多いと感じるのですけど、今の子どもたちは、毎日同じことやってやり続けたいって思う子もいるかもしれないけど、やはり色んなことの情報が我々より遥かに多いので、１週間後の時間をここのこれについて使いたいと、ＹｏｕＴｕｂｅを見る時間に使いたいとかって思う子も沢山いると思います。何かもう少し子ども目線で仕組みを考えればなと思ったところでございます。ちょっとそうは言っても部活動って本当に根付いた文化なので、色

んなお考えがあるでしょうから、ちょっとこの部活動の地域移行について、引き続き検討したいというふうに思います。

続きまして、話題を移しまして、自由進度学習について、宮﨑校長先生からお話がありました。小学校の２学期制については、何となくみんな賛成っぽいので話をしても盛り上がらないかなと思いますが、自由進度学習、これは小学校でも中学校でも、あり得るのかなと思いますけども、何かご意見なり、ご質問がある方がいらっしゃれば、ご発言いただきたいと思います。

因みにこれも私のまったく個人的な経験ですが、私立の中高に行っていたので余計だったかもしれませんが、例えば数学の時間はクラスが選べました。それは多分、当時としても普通のことだったのだと思います。それは要に効率的に偏差値を上げるっていう単純な目的のためにみんなやっているので、進路別に１年生は数学の時間というときにはクラスがいくつかあって、どこに行くかっていうのはもうそのとき生徒が選べる。当然進度が早い生徒が集まっているところは、もう難しい大学の問題なんかに受験問題なんかやりながら、一番ベーシックなものの解説の時間は非常に長くとるようなところもあって、さりながら、期末テスト、中間テストはみんなで同じ問題を解くのですが、進度が進んでいるクラスに１回入るとずっとそこにいるのではなくて、都度選べるような感じでしたが、もっとそれを選択というか、それを自分で考えるようなやり方を先程宮﨑先生が言われたかなと思いますけど、現実その現場で対応しようと思うとどうなのかなとは思います。教育委員の皆さん、何か聞きたいことがあればお願いします。

○蔵本教育委員

はい。

○倉重市長

ありがとうございます。

○蔵本教育委員

先程の宮﨑先生の自由進度学習はとても良いと思いました。だいたい一夜漬けで覚えた知識が身に付くかというと疑問に思うので、自分もそうやってきていてなんですけれど。自分にも姪っ子がいますが、落とすためのテストではなくて、その子が身に付くために柔軟性を持ってやっていいなと思います。それでテストが無くなると、中間・期末にまとめてでなくて、その都度その都度という発想はいいなと思いました。

授業研究をしてしまう真面目な先生ほど効率化が図れて、ワークアンドライフのライフの部分に合わせる時間ができたら、特に真面目な先生には良いのではと思いました。

○谷川教育委員

すいません。

○倉重市長

はい、どうぞ。

○谷川教育委員

自由進度学習は、私の理解では単元ごとにそれぞれ児童生徒が最終的にはここまで到達というか、最終のゴールはここですよ、というのは当然皆共通にあって、そこに向かうために、この単元の中ではこういう進め方とか、それが多分一斉授業になるとどうしても早く理解ができると先に進みたいけど、理解にちょっと遅れをとっている子からすると先に進まれたらもう置いてきぼりになり、本当にとりこぼされる。だからといって、ここがわかるまで教えていたら、先に進む子は時間を持て余すという現状が今あるのかなと。自由進度学習になってくると、最終的にこの単元のゴールはここですよと、そこに最終向かうためにこういう段階を踏んでいてそれぞれ学習していってくださいね、わからないとこあったら聞いてください、教えますよと。先にゴールに到達した子は、もっと先のことができる時間に充てられるとか、そういうことの理解でよろしいでしょうか。

○宮﨑小学校校長会会長

先までは進まないそうです。学習指導要領という決まりがありますので、例えば５年生の３月期の３月頃に、もう自分は終わっているから、６年生の内容はしないし、それ以上はしないということは約束としてあるようです。

○谷川教育委員

その先にどんどん進むということじゃなくて、例えば５年生の何かの単元で、到達が早めにできましたという子が、自分で主体的にするのは大丈夫ですよね。

○宮﨑小学校校長会会長

発展的な学習というのですけども、単元の内容を使って学んだことを生かして、発展的な学習というのをするようになるのではないかと思います。または自分が調べてわかったことを、色々な人とグループで話し合う時間に、こっちの人はちょっと調べているかもしれないけど、早く出来た人たちは、別のことを調たり、わかっていることを交流するような、そういうのがあるのではないかと思います。

○倉重市長

あと進みはしないけども、例えば理解している子には教える側に回ってもらうとか、人に教えるって、ただ単純に理解するよりも遥かに高いレベルで学ばないといけないので、そういう先生と生徒っていうことじゃなくても、皆でそこの理解の総量を増やすみたいなのができそうだなと思いました。

○宮崎小学校校長会会長

市長さんがおっしゃった通りです。私はミニ先生って言っていたのですが、早く終わった子が「先生何しますか。」と言ってきたら、「ミニ先生をしてください。」と言うと、まだできてない子に説明をするのですけども、本当に伸びるのは説明した子なのですよ。説明するっていうのはとても難しくて、本当に内容を理解して頭の中で整理ができていないと説明までできないので、本当にできる子はこういう子なのですよと保護者会でもお話をしたら、その学習法いいですねっていうふうなことで、学校内でも話題にしたことがあります。

○倉重市長

それとそもそも先程途中でお話があったのですが、小学校でも期末テスト、１学期のまとめみたいなものをやっているっていうのも私は全然知らなくて、やはりそれは通知表を付けるために、やらなきゃいけない作業ってこともあって、何となく中間・期末テストは中学校では理解できるのですが、小学校でもやるのですね。

○宮崎小学校校長会会長

中学校は、先生たちが作られる中間テスト、期末テストがありますけども、小学校は普通、市販のテスト使っています。それも３学期制、２学期制があって、７月頃に１学期のテスト、そして３月には学年のまとめのテストをします。

○倉重市長

面白かったのは、通知表の所見が一番面倒だということですね。

○森指導主事

２学期制のことでちょっと触れていいですか。実はみやま市の方で、本年度から２月制を実施されていて、ちょっと生の声を聞いたので、良かった点とちょっと困った点があるというので、言わせていただきます。

良かった点は、さっきの通知表の件で、７月と１２月はとても担任として大変です。保護者に渡すための通知を作るのに、もうその時間がなくなったことで、勉強に困っている子どもたちのために補充学習が十分取れて、有意義な７月や１２月が過ごせていますと、そこはメリットですね。しかも１２月には学力テストもありますし、特に夏休みに入る前とか冬休みに入る前は、担任は子どもたちに、その学期の勉強した内容をある程度定着させて休みに入らせたいわけです。それを先生方は必ず思っていますので、その時間が十分取れます。

デメリットは、保護者の方が通知表を望んでいます。そこをどう説明するかが２学期制を持っていくのに非常に難しいなと思うのですが、今、みやま市の生の声を聞くと、そういう困っているお子さんたちを、特に７月、１２月の休みに入る前に学力の定着を少しでも図ってきますと、３学期制だったら、そういう通知を付ける忙しい時間の中で

やっていたけども、今の２学期制が１０とするなら、３学期制は３しかできていなかったっていう反省があることを保護者の方に今、伝えているということでした。

みやま市が保護者にアンケートを取られたそうで、そうしたらアンケートの中に「先生たちが楽をするためだろう。」とか、そういうふうなことが実際書かれてあったそうです。だからそういう困っている子どもたちとか、困っている子どもたちだけじゃなく、きちんと休み前に子どもたちに学習を定着させてから休みに入らせて、そこで自由研究とか、先程自由進度学習の話がありましたけど、自分の学びたいものをきちんと学んで欲しいとの先生方の思いがあるというのを今、保護者にはきちんと伝えているということでした。だから、やはり７月、１２月というのは、保護者に渡す通知表の方で追われていて、今は自宅に持ち帰りもできない。今はデータ化をしており、通信欄を書くのは以前から比べればかなり楽になりましたが、前は手書きでした。手書きで書いて、それを書き直して、先程言われた赤を入れての繰り返しで、今はデータ化されてちょっとそこは軽減されていますけど、まだ大変です。

そういう意味で教師の生の声を聞くと、７月と１２月は通知を付けないで子どもたちにきちんと指導ができる時間があるのでとても良いと、子どもたちの学力が身に付いていますというのを、今、強く皆さん方が言っているところでした。以上です。

○倉重市長

保護者の方はなぜ通知表を望まれているのですか。因みに私は保護者の立場からすると、手書きの所見だけが読みたいです。算数がどうか、国語がどうか、ということは正直よくわからないので、うちの子が１学期にどう過ごしていたかなとか、何となくその４、５行の中の先生の自分の子どもに対する評価みたいなのを行間から感じ取れるじゃないですか。私はそうなのですけど、そのみやま市の方は、通知表を欲しがる理由は何かあるのですか。

○森指導主事

意見の中で、ちょっと通例というか慣例で、休みに入る前は通知表を貰うものと、これが例えば冬休みでしたら、お年玉とかに反映する保護者もいらっしゃるのです。逆に言うと励みにもなるのですが、そこがどうしても部活動も一緒で、今までの考え方がなかなか変わらないのです。

本来は子どもたちに、その学年の学習内容をきちんと身に付けてから、次の学年に上げるのが基本なので、そこをやこういう方向でやっていきます、というのをきちんと伝えれば大丈夫かなと思っています。

○倉重市長

冷静に考えると、デメリットは保護者が通知表を望んでいるという１個しかないのであれば、やらないということにはならないだろうと思うのですけど、その２学期制のデメリットは他に何かあるのですか。

○宮崎小学校校長会長

市長さんが言われる子どもの評価が聞きたいというのは、普通、７月初め頃に通知表は渡さないけど、個人面談などをして、「うちの子どんなふうですか。生活はどうですか。」と聞かれて「こんなふうです。」っていう、そういう機会は作れるのではないかと思います。そうすると、文字にするのがきついので、文字にしなければそんなにきつくないです。

○倉重市長

確かに上司の方に見せて、また校長先生とやり取りしているというのは、全然保護者は知らないので、そんなに大変な思いをして書かれているというのは初めて知りましたが、実際そうやってマンツーマンで言っていただければいいのかなと思います。そういうことですかね、別に保護者が良いと言えば２学期制も特段問題なくやれますかね。

○森指導主事

メリットの方が多いですね。

○谷川教育委員

保護者さんたちがちょうど休みの前に通知表が欲しいとう話があったのですが、私たちも３学期制で育っています。多分親御さんたちも当然そういう学生時代を過ごしてあるので、ひとつ区切りというのが、やはり身についているのだと思います。その区切りがあって長期の休みに入ります、長期の休みが終わったら、新たな学期が始まりますというメリハリというか、２学期制になると、その長期休みに入る前に通知表的なものがないと、ぬめっと夏休みに入って、夏休みが明けたら始業式があるわけでもなく、終業式があるわけではなく、ぬめっと１学期の続きが始まって、１０月のどこかのタイミングで、体育の日とかその辺ぐらいの連休明けに、急に２、３日ぐらい休みがあった次の日から旧に２学期が始まりますと。多分保護者の感覚が慣れてないだけで、それで先生たちの業務量が減って、それで子どもたちにきちっとした手厚い学習が提供できるのであれば全然問題ないと思います。多分慣れかなというふうに私は感じています。

○蔵本委員

はい。私も同じ意見で、映画で長野県かどこかの話しで、一切小学校に通知表はないというところがあって、もう昔からそうであれば全然親も不思議に思わない、昔からの慣れと自分たちの経験と同じものを求めるというのが大きいのかなと思います。通知表も手書きだったのが印刷になったと聞いてガーンと思ったけど、でも、親は本当に先生たちがこんなに大変なことを知らないのですよね。ＰＴＡの役員のときも知りませんでした。ここに座わるようになって初めて知りました。先生たちはすごく完全無欠な立派な先生ということで、それで間違ったらいけないし、自分たちが間違えても先生が絶対

間違えないと神格化されすぎていて、先生もこういう目的でこういうふうにやっているのだよって。でもこれだけの労力がかかってくると、それに対して、こういうふうなんですけどもどう思われますと、そういうことは伝えてもいいではないかと思いますね。先生もそうですが、その職業に喜びをもって、楽しく幸せに暮らしていけるのが一番と思いますので、それは皆で協力してやっていければいいなと思いました。

○松延社会教育主事

私も３月まで学校に勤めていましたが、先程宮崎校長が通知表の話をしたときに、蔵本委員さんと市長さんがすごく驚いて反応してあったのを見ながら、やはりそうなのだなと思いました。通知表は私が若いときは手書きで書いていましたが、そのときの先輩に何て言われていたかっていうと、通知表の数値で出る部分、これを何と言いますか、それを助ける補う、それがプロの技だから、文字を書いていって、私は書きすぎて超えていたのですが、そこで収める力、それがプロの技なのだと、それが何なのかなっていうふうに思うのですけども、それだけの思いを込めているっていうのを保護者も読んでいるとわかっていただける。そういうところが深まって広がれば良いなと思います。色んな面で結局理解してもらえないから、そのための布石を打たないといけないのですよね。通知表の問題も、通知表がなくなる、所見がないのだから、先生たちが楽をするためだろうと言われると、別に面談をあれと言うわけではないけれど、あと成績表を出すとかありますが、面談をするときに別の何かを作らないといけなくなる。でもそうじゃなくて先生たちはちゃんと見てくれているのだっていう理解が進めば、ある程度こちらで効率化をして、本当に子どものために必要なもの、先程の部活動にしても、そういったところに力を注げるのかなと。今の私の仕事はやはりそういう理解を深めるために、本当にやりたいことがちゃんとできるようになるっていうそれがやはり働き方改革に繋がるかと思います。

○藤岡主幹指導主事

教員の仕事としては、指導だけではないと思うのですよね。指導と評価がやはり必要かなと思っています。その評価の一部が一つ通知表になるのかなと思います。そう考えたとき、教員として大切な力として見取る力がいると思うのです。見取る力がやはり若い先生方は余りないのです。もう自分がこういうふうに授業を進めなくちゃいけないっていう思いが強くて、わかっている子わかっていない子といるのにもうわかっている子を中心に進めるだと思います。その見取る力というのはやはり身に付けていかなくちゃいけないかなというふうには思っています。通知表も私はどちらかというと、所見は書いた方がいいと思っている立場です。ただ、書くところがいっぱいあります。だから絞ったり、その回数を減らしたりすることについて私は賛成です。ただ、プラス、その部分を読んでもらって、子どもが先生こういうとこ見てくれているとか、保護者もこういうとこを褒めてもらっているっていうところがやはり信頼関係の姿になっているのではないかなというふうに考えています。

あと、自由進度学習の件で、やはり先生方の授業を見ていくと、まだ先生が喋りすぎています。子どもが本当は喋ってほしい、そう考えたときにやはり今求められているのは主体的に学ぶ姿なのです。

そうしたときにやはりその主体的な学びを作り出すためにはその自由進度学習というのが一つの手になるのかなと。ただやはりそこには、学ぶという基盤がないといけませんので、やはりそういったところには支援員さんとか先生方を助けてもらえるような方がやはりいらっしゃると、子どもたちも落ち着いていけるのかなって感じです。やはり先生たちも見取る力もそうですけども、自由進度学習って先生の手からちょっと離れていますけど、だからこそ先生たちの力量が問われると思うのですね。デザイン力がないと駄目だし、例えば１０人だとして、１０人の子が何をやっているのかっていうのを瞬時に見取っていかないと、もう教員としての役割を果たしてないことになるので、結構、自由進度学習は魅力的だけど、ちょっと先生たちも力を入れていかないといけないなと思います。

○倉重市長

それなりの時間を部活あり、自由進度学習あり、２学期制ありと、ちょっと今日は子どもたちのためと言いながら働き方改革という何と言いますか、いわゆる残業代を減らすということではないところに画策をしていて、色んなお話をしていただきましたが、何か言い忘れた人がいれば、今村委員大丈夫ですか。

○今村委員

大丈夫です。

○倉重市長

では、一旦内藤教育長にまとめていただきます。

○内藤教育長

はい、ありがとうございました。私もいつ喋ろうと思っていたのですが、今日はもう一切喋らないことに決めていましたので。教育委員さんたち４人から最初にご意見いただいて、その後オブザーバーの方が先生方からいただいて、また委員さんたちからいただきました。また今日は指導主事の先生たちにも発言いただきまして、ありがとうございました。

大川の教育をどうしていこうかっていうのをいつも私は常に考えていまして、今日の総合教育会議はとても嬉しかったです。荒巻先生が感動しましたと言われましたけど、やはり先生たちのこと、子どもたちのことを考えている、この会議だなというふうに改めて思わせていただきました。

冒頭言ったように、先生たちの幸せ、先生たちの笑顔、子どもの笑顔、それがまた先生たちの生きがいに繋がる、やりがいに繋がるっていうのはもう本当に皆さん方言っていただいたのでその通りだなと思っています。

それで、来年どこから手を入れようかなと思っているのですけど、今までの総合教育会議の中でも、必ず言いっぱなしではなくて、次の年に、何か一つずつ何かをしています。今振り返ってみると、探究学習、ふるさと教育、コミュニティスクール、全て次の年に何か一つ一つクリアしていまして、それがあって今の大川になっています。

さて、今回の協議を経て来年度どうしようかなと思ったところ、やはり先程のお話にあるように、２学期制チャレンジしたいなと思います。ただ。小学校、中学校の保護者がありますので、実態も違いますので、まずは小学校からやったらどうかというふうに思っています。そして自由進度学習は１０校全てで完璧に来年からできるはずは多分ないと思うので、まず、来年度は先進的なところから進めて、４、５年かかるかもしれないけど、その頃には全校自由進度学習、単元の中で、自分の学習ができるようなシステムを作っていきたいなと思っています。運動の部活動の地域移行化に関しては、まだ本当に何にも手つけてないのですね。ちょっと周りの市町村の様子を見ていました。でもそろそろ何かしないといけないと私も思っていますので、まずは子どもたちの意識、保護者の意識、先生たちの意識をアンケート調査する必要があるかなと思います。そして協議会を立ち上げて、そこで少し方向性を年度内に持てたらいいかなと思っています。決して無理はできないと思っていますので色んなお考えがあると思うので、地域の、その受け皿の問題もあるし、子どもたちにとって何が一番必要かなっていうのはやはりまだ時間をかけて考えていく必要があると思うので、まずはその意識調査からスタートしようかなというふうに思っています。

２学期制、自由進度学習、部活動と三本柱で今回、進めてみたのですけれども本当に皆さんが言われている言葉の端々に、子どもの幸せ、子どもための先生のやりがい、更には藤岡主幹が言われた教員は何のために仕事しているのかという専門的なことも出ました。

でも私たちとしては先程信頼関係という言葉もありましたけど、先生方たちが、「学校に行くのが楽しい。」、「子どもの顔を見るのが楽しい。」、「こんな子どもに成長しているのが嬉しい。」と言えるような教育になったらいいなと思っています。

片や巷では、教員はブラック企業とか言われて、教員のなり手がないという声も出ています。でも大川に限ってはそんなことないよって、大手を振って言えるような教育環境を作っていきたいなと思っています。そのためにも今日、首長部局の方から３人、課長さん来ていただきました。同じ大川市民を育てるという意味で、今日の会議に参加していただいて本当ありがとうございました。色んなことをお願いすることもあるかもしれませんけど、全て子どもたちの笑顔のため、多くは市民のためにということで、ご容赦いただきたいと思っております。今日はちょっと大きなくくりでテーマを持ってきてしまいましたが、「子どもたちのための」という言葉をつけたことは大正解かなというふうに思っている次第です。本当にありがとうございました。

○倉重市長

はい、ありがとうございました。この会のテーマを何にどうしましょうかっていうので、それこそ１ヶ月ぐらい前に教育長と教育委員会の皆さん来られました。最初はやはり働き方改革というところだったのですけども、先程教育長が言われたような話の流れの中で、こういう話題に絞って話したらどうかということで、色々皆さんお話をしていただきました。ただ今般言われていますが、どの業界もそうですけど人手不足は否めないところで、教員の数ということもありましたが、そもそもブラック企業と今話がでましたが、やはりこうなりたいって思う母数がある程度増えていかないと、なかなか大変だろうなっていうところがあります。さりながら今の子どもたちどうするのって、そういうことで色々と支援員とか、今日ご紹介いただきました、スクール・サポート・スタッフとか、市でできることっていうのは積極的に取組んでいるつもりではありますけど、また現場の方で色々と課題とか、こういうことをやるべきだということがあれば、どんどんおっしゃっていただきたいな、というふうに思っております。

とにかく冒頭申し上げましたように、先のわからないというか、我々が経験したことがない時代なので、余計な話ですけど、１ヶ月ぐらい前に今日の会議の話題どうしようかというときに私が言ったのは、先生って言うのを止めるっていうのはどうでしょうかと。前も総合教育会議で言ったかもしれないのですけど、どうしても日本の教育行政というのは、真面目に言うことを聞く人を育てるために仕組まれたシステム、特にアメリカでも多分そうだと思います。どこだって、やはり社会の秩序を守ってくれる人たちをいかに作るかっていうところに主眼がずっと置かれていて、あまりにもそこの力点が強くて、蔵本さんからありましたけど、先生って完璧で神格化されて悪いことしないし、そんな２４時間ずっといいことばっかり考えている人間なんてそんなにいないわけですけど、同じ人間だということをもう少し、自由進度学習とか、そういうところでもそうなのですけども、いわゆる教壇の上に立っている人と、机に座っている人、要は子どもと大人が一緒に何か時間を楽しく共有できて、一緒に成長できるような何かそんな学校になればいいなと市長としては思っています。

教育行政は、教育委員会の方で教育長を筆頭に、経験者の皆さんとやっていただいていますので、その中身についてはあれなのですけども、そんな思いでこの関係者が来年以降も子どもたちに携わっていければいいなということと、冒頭申し上げましたように、会議して良い案だったら、一つでも二つでも実行していくっていうことを、今日一切発言しなかった市長部局の課長さんたちもいらっしゃいますので、みんなで頑張っていきたいというふうに思います。ということで時間になりましたので長時間にわたってご議論いただきましてありがとうございました。

これにて令和５年度の総合教育会議を閉じさせていただきます。ご協力ありがとうございました。